

汀

断片的な不協和音が軋む

それを包み込もうとする青く透けた不安
それがふらふらと危うく揺れている

私はそれを支えようとする
飛び交う羽虫を振り払う代わりに

溶解した氷の青さそのままの海
頑なに寡黙な海

対比でしか存在意義を見出せぬ己か
それとも遥か水平線の彼方と対峙する己か

この肉体の中に毒づくものは
産み落とされた受精卵の影

美と対極にある妖しげな生命
青臭い水溶液で構成された生命

苦悶の呻きとも
快楽の喘ぎとも

己という部屋の隅に追い詰められ
憎悪の中に閉じ込められた涙

それらを解き放つ者は誰なのか
己自身か、それとも——死か

薄い陽射しが円い石浜に降り
魅惑的な撫で方をする

断片的な不協和音が軋む
私はそれに耳をそばだてる
怯えながら

(2008.11.13)